

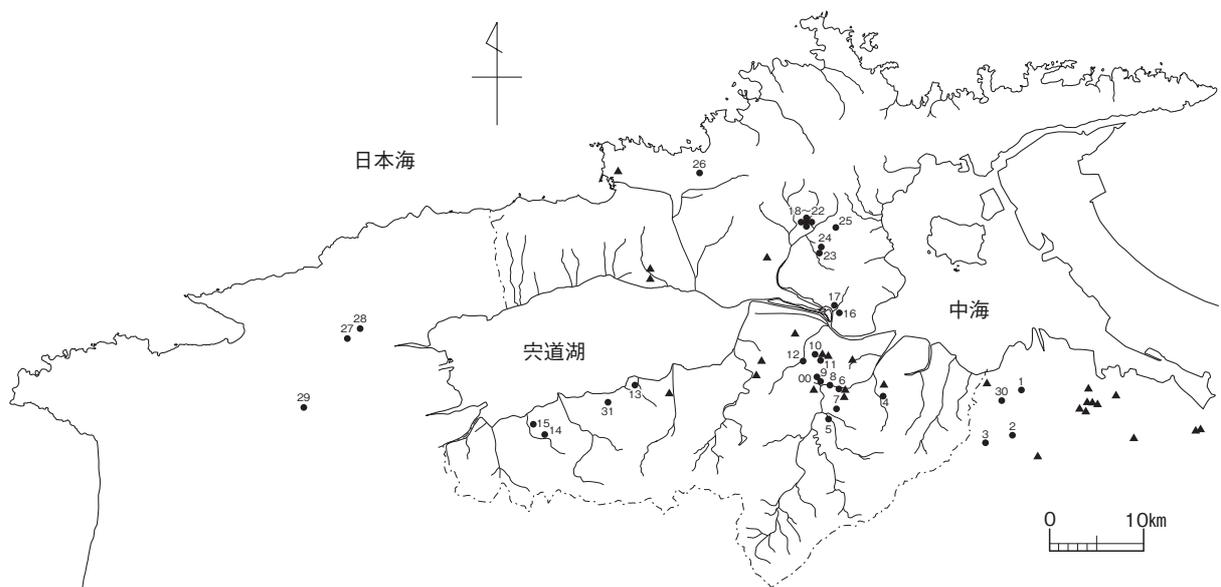
集成 石棺式石室と意宇型横穴墓

石棺式石室とは、古墳時代後期から終末期、出雲東部を中心に構築された横穴式石室をいう。玄室は横口式の家形石棺を大きくした構造で、玄室の奥壁、側壁、天井石、床石とも一枚石を基本にしている。中には天井の内外を家形に加工し、縄掛突起をもつものもある。入口は方形に削り抜かれ、その前面に羨道が付く。また、削り抜かれた入口は、方形の切石で塞ぐ。石材としては、切石を部分的に使い、残りを割石に代える石室も多い。この種の石室も含めると、出雲地域では80基近くを数える。石室の形態は前後2期に区分され、前半期には、玄室の平面形は横に細く、羨道は中央部ではなく、一方に偏って付設されている。後半期では、平面形は正方形になり、羨道は中央部に付くようになる。

墳丘は方墳がほとんどである。既に、この時期には前方後円墳や前方後方墳は築かれなくなっており、石棺式石室が首長墓の石室に採用されるのと、ほぼ同時期に、墳形も方墳へと変化すると考えられる。

石棺式石室は、九州の横口式家形石棺に祖形が求められている。熊本県宇城市の宇賀岳古墳などの石室の影響を受けた古天神古墳（松江市大草町）が6世紀後半に出現する。また、ほどなく石棺式石室の要素を多くもつ伊賀見1号墳（松江市宍道町）も築かれる。両古墳の築造後の終末期には、意宇川下流域の大首長墓である山代方墳（松江市山代町）の石室にも石棺式石室が採用され、出雲東部の各地の首長墓にも用いられる。山代方墳の次の時期に造られた大首長墓の永久宅後古墳（松江市山代町）は後半期の時期の石室であり、これとほとんど同じ形態の古墳としては、雨乞山古墳（松江市八雲町）と飯梨岩舟古墳（安来市飯梨町）が知られる。使用されている石材は、永久宅後古墳と飯梨岩舟古墳は荒島石と呼ばれる凝灰岩で、雨乞山古墳は角礫凝灰岩で、石材の違いはあるものの、石室築造に同一の工人集団が関与していたのではと推測させるものである。これらの石棺式石室の分布範囲は、安来市の飯梨川西岸部から宍道湖西岸の旅伏山麓に当たる出雲市美談町までの広域である。

同じ形態の石室や葬送用の祭具である「出雲型子持壺」などを有していることは、同一の葬送儀礼を行っている証であり、終末期に、意宇川下流域の大首長の勢力がその範囲に及んだと解されるので



石棺式石室と主な意宇型横穴墓分布図 (●石棺式石室、▲意宇型横穴墓) (S=1:800000)

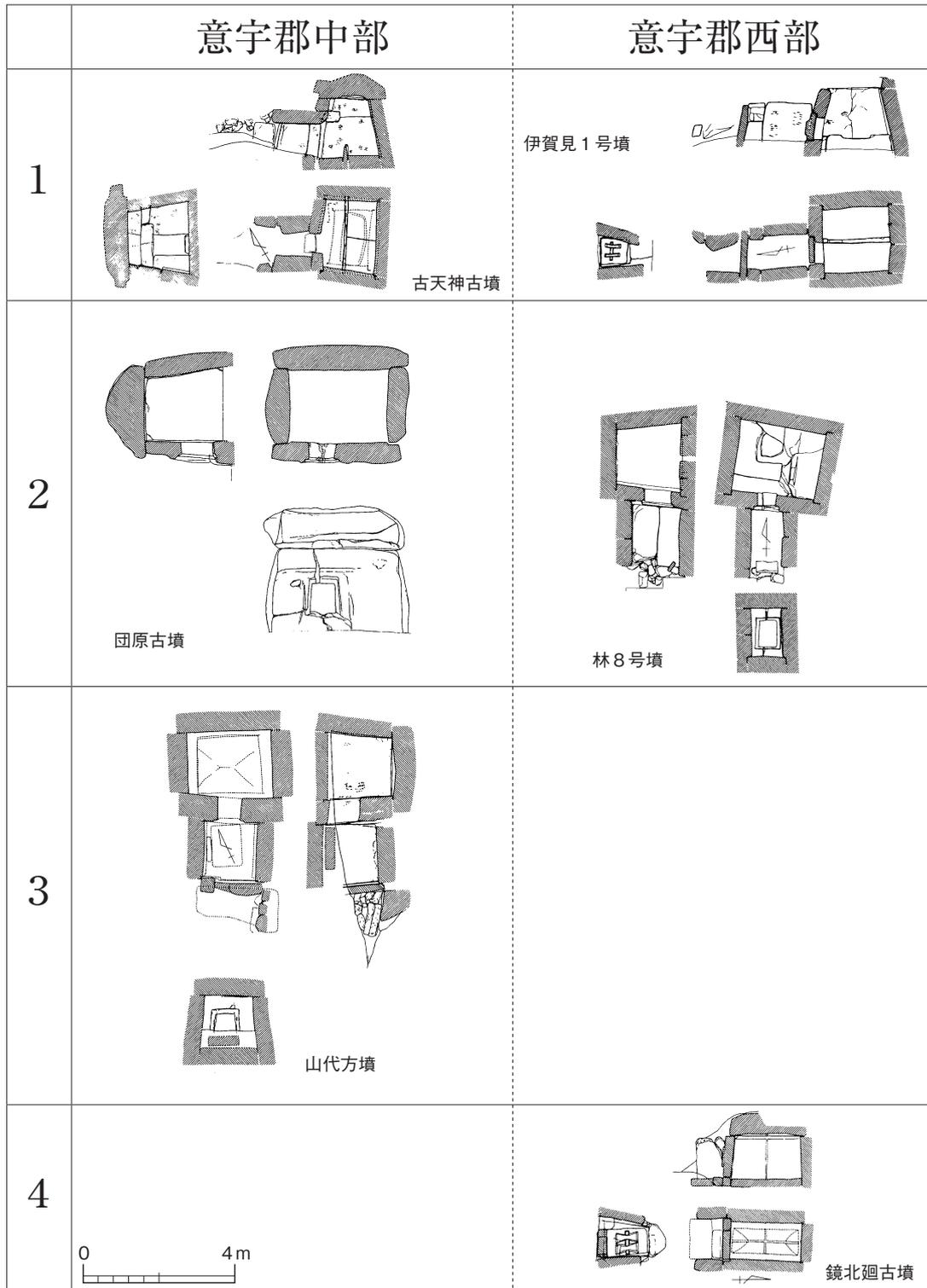
ある。なお、この石室で最も新しい古墳は、西宗寺古墳（松江市下東川津町）であり、7世紀中ころの須恵器を副葬している。

横穴式石室と重なる時期に、出雲地域では山の斜面に穴を掘って、遺骸を埋葬する横穴墓が盛んに造られていた。この墓制も、5世紀に九州北部で出現し、6世紀中ころに出雲地域に伝播した。初現期には、古墳と同様に墳丘をもつ。また、玄室の天井形態は丸天井で、墓道も最初は幅が狭く、通路としてのみ使用された。その後、石棺式石室の影響を受け、家型が主流となる。その後、羨道の前部分の幅は広くなり、墓前祭祀の空間に変わっていった。この形態の横穴墓を意宇型横穴墓と呼び、分布は石棺式石室と重なり、意宇川下流域の安部谷横穴墓群（松江市大草町）や十王免横穴墓群（松江市矢田町）などに多くみられる。

これらの出雲東部の横穴式石室や横穴墓の終末期の状況から、石棺式石室によって表象される新たな支配秩序が形成されたと推定される。（西尾克己）

石棺式石室墳一覧

No.	古墳名	所在地	郡名	墳 丘				石 室 (cm)				備 考
				墳形	規模	埴輪	子持壺	玄室長	玄室幅	玄門幅	羨道幅	
1	塩津神社古墳	安来市久白町	意宇					200	315	65	120	
2	飯梨穴神古墳	安来市上田頼町						180	200			
3	飯梨岩舟古墳	安来市飯梨町						208	214	76	160	
4	栗坪1号墳	松江市東出雲町		方墳	18m			200	180	64	100	
5	池の尻古墳	松江市八雲町						130	190			
6	雨乞山古墳	松江市八雲町		方墳				170	210	60	180	
7	古天神古墳	松江市大草町		前方後方墳	27m			150	190	50	65	
8	岩屋後古墳	松江市大草町				○	○	220	330	70	130	
9	団原古墳	松江市山代町		方墳か			○	180	250	60	90	石室は名古屋城内
10	山代方墳	松江市山代町		方墳	45m		○	175	215	55	130	
11	永久宅後古墳	松江市山代町		方墳				225	250	79	240	
12	向山1号墳	松江市古志原		方墳	32m		○	197	205	55	105	
13	林8号墳	松江市玉湯町		方墳	20m	○		189	250	50	93	
14	下の空古墳	松江市宍道町						170	100			
15	伊賀見1号墳	松江市宍道町		前方後方墳	25m			180	191	68	80	
16	朝酌岩屋古墳	松江市朝酌町		方墳	30m		○	190	310	70	100	
17	朝酌小学校校庭古墳	松江市朝酌町						124	204	55		
18	太田1号墳	松江市東持田町				○		160	230	55		
19	太田2号墳	松江市東持田町						195	191	60	115	
20	太田3号墳	松江市東持田町						160	180	50		
21	太田4号墳	松江市東持田町						190	185	70	105	
22	太田5号墳	松江市東持田町						180	210	52	100	
23	西宗寺古墳	松江市上東川津町						200	220	45	120	
24	葉佐間古墳	松江市上東川津町						174	210	60	136	現存しない
25	川原古墳	松江市川原町						164		55		
26	講武岩屋古墳	松江市鹿島町						180	135	60	135	
27	山崎古墳	出雲市東福町	楯縫				190	190	55			
28	奥屋敷古墳	出雲市岡田町					175	200	55			
29	寺山古墳	出雲市美談町	出雲	方墳	15m			136	187	60	(110)	
30	若塚古墳	安来市久白町	意宇	方墳	11m			195	115	60		
31	鏡北廻古墳	松江市宍道町		方墳				180	100	72	105	



石棺式石室編年図（出雲考古学研究会1987より）

参考文献

- 出雲考古学研究会1987『石棺式石室の研究 古代の出雲を考える6』
- 山陰横穴墓研究会1997『出雲の横穴墓－その形式・変遷・地域性』
- 角田徳幸2008「出雲の石棺式石室」『古墳時代の実像』吉川弘文館